

大学別10位で国内予選突破 ACM大学対抗プログラミングコンテスト

ネットワーク情報学部「RECAPTURE」
チーム



▲松永助教授と(左から)倉品くん、
中村くん、荒木くん

「ACM国際大学対抗 プログラミングコンテスト」(注※)国内予選に出場したネットワーク情報学部の荒木博志くん(3年次生)、倉品裕多くん(2年次生)、中村哲也くん(同)のRECAPTUREチームが、大学別10位・チーム別26位の成績で、アジア地区予選出場への切符を手に入れた。

過去最多の45大学(高専含む)199チームが出場した同コンテスト国内予選で、専大からは3チームが参加。RECAPTUREチームは2年次生中心の編成ながら6問中3問を解答し、私立大学では立命館大学、早稲田大学に続く好成績をあげた。3人は、11月20(土)、21(日)の両日、愛媛大学で開催される愛媛大会(アジア地区予選、33チーム参加)に臨み、入賞を狙う。

昨年に続き2回目出場の中村くんは「短時間で問題を解くためのペース配分が大切だと実感しました」と語り、3人は夏休みも猛勉強を続けてきた。

コーチとして出場した松永賢次同学部助教授は「実力伯仲の中、私大で3位の成績は大健闘だ。愛媛大会まで、コツコツと実力をつけて目標を突破してほしい」と激励している。

※ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト

大学生を対象とした世界的規模のプログラミングコンテスト。学生のプログラミング技術向上を図るとともに、国際交流の場を提供する目的で開かれ、今年で29回目を迎える。昨年の大会は世界75カ国3150チームが参加、それぞれの地区予選を戦い、勝ち上がった73チームが世界大会に出場した。

コンテストを主催するACM(Association for Computing Machinery)は、世界最大規模の計算機、情報処理の学会。

【ニュース専修2004年10月号6面】

総合格闘技で活躍

昨年6月にプロデビュー

榎田雄二郎くん（経営3）



▲ZSTで6勝目を挙げた榎田くん

“打つ”、“投げる”、“極(き)める”——格闘技の醍醐味をミックスした総合格闘技の舞台上で活躍する榎田雄二郎くん（経営3）。昨年6月にプロデビュー、「ZST」（イベント名）のリングへ。昨年末から今年にかけて行われたジェネシスライト級トーナメントで優勝を果たすなど、これまで6勝1分と負け知らずだ。

「小さい頃から大のプロレスファンで、中3の時、近所に高田延彦さんの『高田道場』が設立されたことが格闘技を始めたきっかけです」。1期生として入門し、桜庭和志さんら一流のプロレスラーとスパーリングをこなす。「長州力さん（本名＝吉田光雄・昭49商、レスリング部OB）と練習を一緒にすることもあり、かわいがってもらっています」。

「誰にでも楽しんでもらえる試合をしたい」と話す。バック転などパフォーマンスで会場を盛り上げ、卓越したテクニックで勝利を収めてきた。

次の試合は11月3日、ZEPP東京で行われる「ZST-GP 2」。師匠・高田さんからは「PRIDE」「ハッスル」などのビッグイベントへの出場も打診されており、学業と両立しながら大舞台上で躍動する榎田くんの勇姿を目にすることが出来そうだ。

【ニュース専修2004年10月号6面】

山崎・秋山組が2部門制覇

第16回東京都杖道大会



▲けいこに励む秋山くん(左)と山崎くん

第16回東京都杖道大会が7月17日、東京足立区の東京武道館で開催され、「二段の部」で専修大学杖道会(顧問・宇都栄子教授)の山崎武見(法4)、秋山悟(文3)組が優勝した。2人は前大会の「初段の部」でも優勝、2部門制覇を成し遂げた。

杖道は「形武道」と呼ばれる。試合は2人1組で、一方が杖、他方が木刀で立ち向かい、指定された立ち合いの形を2組が同時に演武し、正確さ、早さ、鋭さなどを競う。

山崎くんは「就職活動でけいこ不足でしたが、平常心を失わず取り組みました。それまで流した汗の量が力になっていると信じ、自分の力が出せたと思います」。秋山くんは「試合に勝ち進むごとに、先輩(山崎くん)と呼吸が合っていくようでした。杖道は健康維持だけでなく、精神修養の場となっています。来年もぜひ出場したい」と喜びを語っている。

【ニュース専修2004年10月号6面】

学生たちの工夫で勉強会 遊び心も加えレベルアップ

中国語学習サークル



▲ アットホームな雰囲気でも実力アップを目指す

中国語をレベルアップさせようと、中国語担当の土屋昌明経済学部助教授の呼びかけで、自主勉強会が生田キャンパスで開かれている。

上級クラスは毎週月曜日、会話をメインに約1時間の学習。HSK6級で中国の大学に留学出来るレベルだが、中には8～9級の学生もいるそうだ。「日本貿易振興会(JETRO)に内定した4年次生もいます。銀行や商社などの内定者もいますので、『語学力の強み』を評価されたのだと思っています」と土屋助教授。

毎週火曜日の昼休みに行われている初・中級クラスは、上級クラス参加者が下級生に指導するというスタイル。取材日は後期の初回。夏期休暇中の出来事を中国語で語り、別の人に通訳する。その後のリスニングの練習は、遊び心のある内容で、楽しそうに解答していた。まとめ役の大江伸之くん(経営3)は、1年間休学し、雲南省で「耳で聴いて実際に使う」経験をした。「話せることで自信が付き、何事にも積極的に取り組むようになり、語学だけでなく文化にも興味を持つようになりました」。

「中国語の美しい音が好きなんです」という関裕孝くん(経済4)は北京大学に1年間留学。「躍動する中国の姿を実際に見ることが出来ました。各国からの留学生と知り合った経験も大きかった」。今春、同大学に短期留学した滝瀬祐子さん(二部経済2)は「仲間と会話することで刺激を受けています。いつかは長期留学を」と夢を話す。

【ニュース専修2004年10月号6面】

熱い気持ちを企業にぶつけよう 経済・経営・商学部ゼミ連主催「学内大会」



▲ 学内大会の打合せをする実行委員のメンバー(中央が望月君)

経済・経営・商学部ゼミナール連合会(以下ゼミ連)は、毎年秋に講演主体の学内大会を開催してきたが、マンネリ化という問題を抱えていた。

そこで今年の実行委員会は新企画、名づけて「専大の夜明け～いま、めざめよ専大生～」をテーマにした学内大会の参加者を募集している。

資生堂や三井住友銀行、リクルート、NHKの番組プロデューサーなど10社程度の講師を招き、企業ごとに分かれて、少人数での活発な討論を行う。業界によっては、事前に提示されたテーマに沿って商品企画のプレゼンを行い評価してもらう場合もある。

約15人の実行委員のまとめ役・望月敬介くん(経営3・溝田誠吾ゼミ)は、「ただ座っているだけでなく、積極的に企業について調べ、発言出来る人を求めています。基本的にはゼミ連に入っているゼミ生が中心ですが、『ゼミって何?』と悩んでいる2年次生も大歓迎。専大全体からしてもゼミ連に加盟しているゼミは少ないので、これを機に加盟してくれるゼミも募集しています」

3年次生の第1回就職ガイダンスで参加案内を配付した。詳細はホームページで。
(<http://gakunaitaikai.hp.infoseek.co.jp/>)

【ニュース専修2004年10月号6面】